

ゆうこう便り

発行:北口雄幸事務所
士別市東7条9丁目
Tel0165-22-3100
fax0165-23-4356

ふるさと 農林業で郷土再生

戸別所得補償制度の継続と法制化を!

謹賀新年



明けま

しておめ
でとうご

ざいます。輝かしい新年を
お迎えのことと、心よりお
喜び申し上げます。

さて、昨年十二月十六日
に行われた総選挙では、民
主党に厳しい審判をいただ
き、あらためて信頼される
政治の必要性を感じたとこ
ろであり、新政権は、地方



に配慮した政治を行ってほ
しいと願っております。

北海道経済は、依然とし
て厳しい環境を抜け出すこ
とができず、効果的な経済
対策や雇用対策が求められ
ております。

また、昨年の農業におけ
る稲作については、二年連
続の豊作と戸別所得補償制
度により、着実に農家の所
得が向上しており、早急に
この制度の法制化を図る必
要があります。

一方、畑作については、高
温障害の影響を受けて、て
ん菜の糖度低下や馬鈴薯の
不作、さらには野菜の価格

低迷など、農家の皆さまの
努力が報われない結果とな
りました。

そのような中、TPP交
渉参加問題については、農
業はもとより、さまざまな
分野での影響が多岐である
ことから、断固参加させな
い運動をさらに強化してい
かなければなりません。

北海道は、農林水産業が
基幹産業の地域です。第一
次産業の元気が地域の元気
を取り戻すことになると思
じ、農政委員会副委員長、
超党派の農政議連・林活議
連の役員として、これから
も活動する決意です。

生活者、現場、 ふるさとを守る

北海道議会議員 北口雄幸

我が国は、長年「政・官・業」
の癒着によって政策が決めら
れ、「天降り」を通じて地方へ
予算が配分される形で中央集
権をつくり上げてきました。そ
れを私達は「子ども手当・高校
授業料無償化・農業戸別所得補
償」に象徴される「直接支援」

へと大きく転換してきました。
また郵政改革や地方交付税
の還元など「地方重視」も貫い
てきました。

特に私自身30年来主張して
きた「農業の戸別所得補償」は
実現できましたが、法制化まで
仕上げるのが出来なかった
ことは心残りです。「6次産業
化」と併せてふるさとを守る政
策づくりを今後も提言し続け
ていきます。

私達がめざしたものは「生活
者主義」「現場主義」「ふるさと
主義」です。これは政治の原点
であると確信しており、この姿
勢を貫き、今後も活動を進めて
いく決意です。

2013年が皆様にとって
幸せ多い一年でありますよう
祈念いたします。

前農林水産副大臣

佐々木隆博



第四回定例道議会報告(11月27日、12月25日)

今定例会は、衆議院総選挙が12月4日告示16日投票の日程で実施されたことから、一般質問終了後に

休会し、総選挙終了後に予算特別委員会での質疑を開始する、変則的な会期設定で行われました。

また、師走選挙と政権交代が重なり、国の予算編成作業は事実上、年明けから行われる状況となり、予算委員会では、地方財政を含む財政運営、エネルギー政策、経済対策などについて、道

の見通しを質しましたが、いずれも「国の動向を見極めたい」とする主体性に欠ける答弁に終始しました。

公共事業は旧来手法

政権を担うことになる自民党及び公明党は、選挙戦を通じて国債大増発も辞さない大規模公共事業による景気対策を主張し、大型補正予算を明らかにしています。しかし、小泉政権以降、続いた公共事業抑制により、地域では役所にも業者にも

大幅な事業増加を受け入れる能力がなくなっていると指摘があります。

また、自治体財政が、事業増加に対応すれば、借金増に陥ることが懸念され、知事も答弁では、「社会資本整備拡大に伴う地方負担には、財政措置拡充を要望する」との姿勢を示しました。

そもそも、自治体財政については、小泉政権、引き続く安倍政権時代に、経済財政諮問会議路線で、地方交付税を大幅に縮減されたものの、民主党政権下での復元で、自治体財政は一息ついた状況です。しかし、この地方交付税についても財務省では、国家公務員の賃金引き下げに応じた大幅削減を主張する動きもあり、年明けに本格化する予算編成を注視していかなければなりません。

不明な原発政策

また、原発政策、エネルギー政策については、原発の安全性、大間原発等の新設

原発の取り扱い、代替エネルギーや送電網整備対応等への新政権の対応は明確になっていません。従来の自民党政権の経済性重視で安全性軽視の姿勢に復帰することのないよう今後も議論を重ねる必要があります。

496億円を補正

道の補正予算案は、開会初日と会期最終日の2回に

平成24年第4回定例会で議決された補正予算(単位:千円)

項目	一般会計	特別会計	合計
現計予算	2,754,740,404	535,740,068	3,290,480,472
4定補正額	49,584,305	0	49,584,305
通常補正	34,917,216	0	34,917,216
追加補正	14,667,089	0	14,667,089
合計	2,804,324,709	535,740,068	3,340,064,777

分けて提案されました。冒頭提案分は、国の経済危機対応や地域活性化予備費分の公共事業及び農業基盤整備費、災害復旧事業費、端境期対策の投資単独事業費など、一般会計で349億円。最終日提案分は、国の予備費対応追加に伴うもので、公共事業費、緊急雇用創出等の基金の増枠など、一般会計で147億円です。この補正予算によって、平成24年度の道予算の規模は、一般会計2兆8043億円、特別会計5357億円の合計3兆3400億円となりました。

採択された決議・意見書

道民の医療を守るための充実・強化を求める意見書
私立専修学校に関する新学校種の創出と財源措置に関する意見書
国内製油所の分散配置によるエネルギー安定供給体制の確立に関する意見書
義務教育等学習機会の充実に関する法整備を求める意見書

本会議で農政委員会での審議事項を報告(12月25日)



写真で振り返る北口道議の活動記録(10月、12月)



北海道森づくりフェスタで記念植樹(10月21日)



多寄町での新そば祭りに参加(10月7日)



藤井吉信前上川町議会議長を労う会(11月8日)



士別市功労章及び社会貢献表彰式(11月2日)



逢坂誠二衆議に過疎法の見直しを要請(11月4日)



道消防協旭川地方ブロック定期総会(11月9日)



士別市立武徳小学校の閉校式で挨拶(11月24日)



郡司大臣にTPP交渉参加反対を要請(11月16日)



中富良野町農民連盟の定期総会で挨拶(12月20日)



さっぽろ市士別ふるさとの集い交流会(10月20日)

第28回 さっぽろ市士別ふるさとの集い総会・交流会
2012.10.20 於:札幌グランドホテル

北口ゆうこう奮闘日記

http://y-kitaguchinet/

北口道議の奮闘ぶりをブログから抜粋して紹介します。(10月~12月分)

10月27日【中川商業高校閉校式】

『誠実』を校訓に持つ北海道中川商業高等学校は、2年前から新入生の募集を停止し、来年3月をもって63年の歴史に幕を閉じることとなり、今日閉校式が挙行された(中略)

今日の記念式典で生徒会長の岡本紗綺さんは、「入学当時は先輩があり、閉校の実感がなかったが、2年生・



閉校式でご挨拶する岡本紗綺さん

3年生になるにつれ、後輩が入学せず、在校生も私たちがだけになると、やはりさみしい限りだ。しかし、地域の皆さんに親しまれ、励まされてこの学校で学んだことを誇りに思い、これから社会の中で頑張る」と、決意を込めたご挨拶をされた。

11月3日【富良野市功勞表彰式】



受賞された皆さんと記念撮影

富良野市功勞賞』を昭和44年から贈呈しており、現在まで述べ366名が受賞されている。今年も、功勞表彰に5名の皆さんが受賞し、能登富良野市長が式辞

の中でそれぞれの活動のご功績を報告、表彰状を授与された。

11月22日【おむすびおひるめ会】

今日は、いい夫婦の日。そんな今日、農家の若手奥さんと組織する「しべつクルール(大友歩美会長ほか11名)主催のおむすびおひるめ会に参加してき



しべつクルールの皆さんと記念撮影

た(中略) 今日の食材は、おにぎりはななつぼし、南瓜はまさかり南瓜と地元産にこだわったおむすびとお総菜をいただいたところだ。また、ごはん本来の味を出すため、文化鍋で炊くなど、炊き方にもこだわっている。今日提供されたおむすびとお総菜は、材料費のみの負

担として500円で提供いただいたが、今後本格的に販売するようになれば、価格の設定や製造場所等の課題も明らかになった。今後このような6次産業化への取り組みは、是非とも成功してほしいものであり、私もしっかりと応援したいと思っている。

12月17日【多寄農連定期総会】



多寄農連定期総会でご挨拶

今回で65回目となる多寄農連定期総会の開催には、代議員約50人が参加して開催された。冒頭、上山委員長は、「今回の選挙は自民党圧勝、民主党惨敗の選挙だった。民主党が国民の期待の応えられなかったことへの結果ではないか。

ただ、残念なのは、戸別所得補償制度の法制化がなされなかったことやTPP問題での情報が不足したことだ。これからも、持続可能な農業を目指し、しっかりと頑張っていこう」と挨拶された。その後、牧野士別市長や佐々木農林水産副大臣に続き、私にもご挨拶の機会をいただき、てん菜の低糖度問題や25年産の米の生産数量目標などについてお話しさせていただいた。

【ひとりごと】

「民主党惨敗 自民党勝利」で終わった衆議院選挙であった。3年4ヶ月前、「国民の生活が第一」をキャッチフレーズに、民主党政権が誕生した。この間、鳩山政権、菅政権、野田政権と3人の首相が誕生したが、政権与党としての経験不足が露呈し、何も決められない党と揶揄された。しかし、戸別所得補償制度や高校の授業料無償化、地方交付税の還元など、多くの成果もあった。今後、新しい政権では、生活者や地方に光をあてる政治をしてほしい。それが、私たちのささやかな願いである。(ゆうこう)